

Title	日本の近代化における教育の役割
Sub Title	
Author	高橋, 秀子(Takahashi, Hideko)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	1992
Jtitle	研究会優秀論文
JaLC DOI	
Abstract	本論文では、日本の近代化における教育の役割について論じられている。どういう教育が近代化を推進させるのかという教育の条件を述べたうえで、幕末から明治初期の日本の教育状況を当時及び現代の非西欧諸国と比較し、結果的に日本の教育が近代化を早く実現させた理由は何だったのかを考察している。
Notes	伊藤陽一研究会1992年春学期
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0546

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



日本の近代化における教育の役割

高橋 秀子

慶應義塾大学総合政策学部 3 年

Hideko Takahashi

Faculty of Policy Management, Keio University

伊藤陽一研究会

1992年春学期

慶応義塾大学 湘南藤沢学会

Keio University Shounan Fujisawa Gakkai

日本の近代化における教育の役割

79003089

総合政策学部3年

高橋秀子

1 近代化と教育の関連性

17世紀以降の欧州において最初に認められた社会的変化を意味する、“近代化”という言葉の概念規定には一致した見解はない。例えば、精神的な観点から個の確立に着目する立場、民主主義的な社会関係の成立を重視する立場、または産業構造の変化や工業化の展開を強調する立場、もしくは資本主義的生産様式に注目する立場など、実に様々な見解がある。そして最近では、1960年代に入り、後進国の近代化や開発計画の推進のための指針になり得る一般的な近代化原理を見いだすために、多くの学者が「近代化論」を有力な社会発展理論として提唱し、国際的に活発な活動を示してきた。

ところで、¹近代化という言葉は、上記のような歴史的過程の把握に基づいてその本質的要因とされるものを人為的に実現しようとする、未来への行動計画と遂行を指すこともある。つまり、自我の確立、民主主義的人間関係の実現、技術改革、もしくは生産性の向上といった、それぞれの理解に基づいた行動目標とその実現の営みを“近代化”という言葉にあてはめることがある。その中で特に近年における近代化政策として、各国のマンパワー・ポリシーの重視とそれに伴う教育への努力は、注目に値するものである。いかに言えば、近代化を達成させるためには、官僚・経営者・専門家などのエリートから労働者・農民層に至るまでの、あらゆる階層の経済的・政治的主体を形成するための教育は必要不可欠だということである。

例えば、²M. D. Shipmanは、近代化の局面として、(1)社会が次第に巨大に専門分化した組織によって支配されるようになること、(2)市民的、政治的、そして社会的権利を享受する見通しと、これらを獲得するべく政治的行動を起こす可能性を有する人間が増加していくこと、の二点に着目し、その具体的な考察方法として教育の制度・内容等を検討し、その上で近代化における教育の機能を述べている。また、³エール大学のJ・W・ホールは、1960年の近代日本に関する会議で、近代社会の基本的特性を七つ提示した。そして、そのうちの第四番目の特性として、「読み書き能力の普及、及びそれが伴う環境に対する個人のセキュラー（非宗教的）な科学的思考の増大」を挙げ、教育そのものを近代化の一指標として取り上げた。さらに、⁴社会学者のA・Inkelesは、近代的人間の類型を九つ挙げたうえで、こうした人間の類型を形成する源泉として教育を筆頭とした諸要因を挙げている。なお、日本国内では福沢諭吉が「学問のスズメ」の中で、「人は生まれながらにして貴賤貧富の別なしに唯学問を勤て物事をよく知る者は貴人となり無学なる者は貧人となり下人となるなり」と述べ、最も適当な人材が最も適当な地位に着くという近代原理下の資本主義的競争社会において、学問がいかに重要であるかと主張している。これらの学者の主張からもわかるように、近代化を実現させるうえで人々に知識をもたらし、各国の政治経済その他様々な分野を発展させるための基礎となる教育は、無視できない存在

¹唐沢富太郎編著、日本の近代化と教育、p.291

²唐沢、日本の近代化と教育、p.294

³M.B. ジャンセン編、日本における近代化の問題

⁴ジャンセン編、日本における近代化の問題

といえよう。

2 日本の教育と近代化

さて、初めに、近代化と教育の関連性について述べたわけだが、このことは、非西欧諸国の中で最も早く近代化に着手して成功した唯一の国である日本についても当てはまる。近代化競争に遅れて参加した国が、どうすれば工業化を達成し実行力のある政治機構を形成することができるのか、という疑問に対して多くの人が19世紀中葉の日本の正式の学校教育制度の存在を挙げている。つまり、教育政策によって教育が国民全体に普及したか否かが、日本と他の非西欧諸国の近代化実現の分け目となったといえよう。そこで次に、最初にどういう教育が近代化を推進させるのかという教育の条件を述べたうえで、幕末から明治初期の日本の教育状況を当時及び現代の非西欧諸国と比較し、結果的に日本の教育が近代化を早く実現させた理由は何だったのかを考えてみたい。

2.1 近代化をもたらす教育条件

まず、近代化を推進させる教育の条件として、読み書きの普及（文盲追放）は一番重要なものである。文字は人間生活を営むうえで極めて大切な道具であり、情報化には不可欠である。いくら西欧等の近代化を達成させた国からその思想や体制を学ぼうとしても、文字が読めなければ全く不可能である。そして読み書き能力を高めるためには、初等教育の普及と大人の文盲撲滅は何よりも必要である。さらに、より高度な読み書き能力を教育によって身につけていくことでより広範な知識を習得することができ、やがてそこから近代化推進を担う知識人が誕生する。知識階級の存在は、近代社会を構成し確定する重要な要素である。⁵なぜならば、近代的なものの見方や志向性を持つ知識人の存在なくしては近代化の過程は始まらず、ましてや近代化の実現には到底おぼつかないからである。⁶一方、読み書きの普及と初等教育の普及は、一般大衆に進んで新しい知識を得ようとする向上心をもたらし、自己改良の意欲を高めて国民の多数の競争参加を促して、政治経済の近代化への源力に導く役目も持った。そして、それは後の実力主義や学歴社会、立身社会につながっていった。

2.2 幕末から明治初期にかけての日本の教育状況

まず、先にも述べたが、非西欧諸国と異なり、日本には19世紀半ばにはすでに発達した学校制度が確立していた。そして、その先駆的なものとして徳川末期の教育事情を無視することはできない。

徳川家康期は、武士でも文盲は普通だった。しかし、井原西鶴が文盲の武士を時代遅れといったように、17世紀末にはかなりの人が教化され、19世紀に入るとあらゆる階層において様々な教育手段が講じられた。例えば、武士階級においては、幕政改革による人材育成のために藩学が奨励され数多くの藩校が作られた。また、幕府によって高等教育機関が設立されたほか、私塾が全国に至るところで見られた。さらに、非常に多くの人々が家庭教師を雇い、女子の教育の大部分もこの家庭教師制によった。また、町人の学校教育としては寺小屋が中心的存在となり、読み書き算術から教科書による多岐に渡る分野の学習、さらには師弟間の人間的なつながりを習得していった。一方、国民の大部分を占める農民も郷校や教諭所で簡単な読み書きと儒教道德の講釈を受けていた。そして、心学と天・地・人の三徳に報いる道を説く報徳という二つの学習が実際に庶民教化運動に大きな働きをした。⁷これらの学校教育制度の発達の結果、維新当時では日本の全男子の40－50％と女子の15％が自宅以外の何らかの正

⁵ M.B. ジャンセン編、日本における近代化の問題、p.107-p.128

⁶ ジャンセン、日本における近代化の問題、p.327

⁷ ジャンセン、日本における近代化の問題、p.106

規の教育を受けていた。そのため、⁸文盲率は現在のほとんどの低開発諸国よりもかなり低く、当時のプロイセン・オランダ・スコットランド以外の同程度の経済発展段階における欧州のどの国よりも非文盲率が高かった。⁹ちなみに、当時の日本の文盲率は成人男子で50%、成人女子で85%位であり、Carlo M. Cipolloの「Literacy and Development in the West」に載っているイタリアやスペインの75-80%に比べるとはるかに低かった。また、現在の他のアジア諸国の平均文盲率が1970年段階で約46.8%である。ということは、約100年後のアジア諸国と維新当時の日本の知的水準はほぼ同程度であり、かなり日本の教育水準は高かったことがわかる。ただし、ここで注意しなければならないことがある。それは、現在のアジア諸国の文盲率が高いからといって、必ずしも維新当時のアジア諸国の教育水準が低かったとは限らない、ということである。残念ながら、当時のアジア諸国の文盲率が残っていないため断言はできないが、¹⁰西欧近代社会成立以降、アジア諸国は常に西欧の侵略の対象となり植民地化されるにつれて、かつての経済や文化、教育、科学の水準が低下していった、という説もかなりいわれているからである。

さて、維新前になると、いままで儒教中心の教育をしていた学校でも西欧の近代化を見習い、実学を主張する洋学教育に力を入れ始めた。そして王政復古を迎えると、西欧に侵略されないために一刻も早く国を近代化させる必要に迫られ、日本の近代教育が歴史的課題となった。そのため、欧米諸国と同様に殖産工業・富国強兵のための教育が文明開化の一環として行われ、1872年に学制が制定された。ここでは、近代化を達成するための脱亜促進教育が目標とされた。さらに同年に¹¹教育令が公布され、なんととしてでも国民教育を根づかせて統一された義務教育制度を作り上げようとした。

一方、この時期の教育に従来は言われなかった、¹²実力主義、すなわち成績の良いものが権力を得るという学内競争原理が普及していった。これは、より優れた人材育成のために個人の野心を刺激した主義ともいえる。こうして数多くのエリート（知識階級層）が近代教育制度によって生み出された一方で、多くの一般大衆が読み書き算術の他にある程度の教養を身につけるようになり、日本の近代文明化への基礎を作り、後の軍人教育へとつながっていった。

このように、日本の幕末から明治初期の教育は他国よりも順調に行われていたが、次に、なぜ日本の教育が他の非西欧諸国と異なり近代化を導くことができたのか、その理由を考えてみたい。

2.3 日本の教育が近代化実現を可能とさせた理由

まず、このことは全く偶然だったのだが幸運なことに、我々日本人は全国民に共通する統一言語（日本語）を有していた。そして、この日本語の特性が他国よりも近代化を早く実現化させることができた要因といえよう。¹³つまり、全国民に統一された書き言葉についてほんの少しの知識があれば日常的に十分に物事を表現できるということは、文盲率短期間に減らすことに貢献し、人々は読み書き能力を身につけ西欧の学問を受容することができ、庶民教育普及におおいに役だった。

次に、幕末に各階級層で多彩な学校教育が行われていたことからわかるように、広範な階層に基礎教育が普及していた。そのため、¹⁴近代化達成に重要な「競争心」が人々の間で自己向上という形で浸透していったということが挙げられる。そして、自己向上のための競争原理がさらに発展して19世紀の実力主義に結びついた。

第三には、¹⁵基礎的な読み書き能力が定着したことで、近代化の過程が明治に入って始まったとき、

⁸ ジャンセン、日本における近代化の問題、p.107

⁹ 豊田俊雄編、アジアの教育、p. 42

¹⁰ 豊田、アジアの教育、p. 28、馬越 徹、現代アジアの教育—その伝統と革新— p. 82

¹¹ 1880年に自由教育令に改正された。

¹² ジャンセン、日本における近代化の問題、p. 126-128

¹³ 麻生 誠、近代教育史、p. 31

¹⁴ ジャンセン、日本における近代化の問題、p. 107

¹⁵ ジャンセン、日本における近代化の問題、p. 109

日本国内や西洋からの高度の情報を活用することが十分に可能となった。現に1875年以後に近代日本の基礎となる数々の変革を成し遂げた人々は、19世紀半ばの学校教育制度を受けた世代だった。

第四に、このことは後進国の近代化の歩みの一典型とされているのだが、日本の場合も同様で、¹⁶教育行政が中央集権で教育内容が国定制度に基づいていたからこそ、近代化が短期間のうちに推進され成果を挙げることができたといえる。そしてこのことに関連して、超藩閥的な国家統一としての中央集権下のエリート育成が、日本の近代化達成に大きく貢献したと考えられよう。なぜならば日本を近代化させる上で、近代技術を中心とする諸知識を学び日本をリードする知識階級層形成は不可欠だったからである。さらに、このこと以上に他のアジア諸国よりも早く近代化を達成できた理由として、藩や幕府が庶民教育を是認し奨励したことが挙げられる。中央集権下でのエリート教育は中国や韓国でも行われていた。例えば、中国の科举制度はその典型である。しかし、先にも述べたが不幸なことに、アジア諸国は維新当時に西欧列強の侵略を受け植民地化された。そのため、各国で計画していた近代学校教育制度への転換の道が閉ざされてしまった。例えば、朝鮮には当時、すでに李王朝時代に庶民の教育機関（書堂）から最高学府（成均館）に至る完結した教育体制を有し、その普及率もかなりの程度に達していた。そして朝鮮自らが旧教育から新教育へ、すなわち近代的学校制度への転換を図ろうとしていた。だが、日本に植民地統合されてしまい、その道は断絶された。¹⁷植民地にあって宗主国は、植民地経営に必要な官僚エリートを自国の権益の保護のためにのみ養成する教育にだけ力を入れた。しかし一般大衆は無視され、大半の民衆は学校教育とは無縁の状態に放置され、せいぜい読み書き程度しか教育されなかった。その結果、エリートと一般大衆の格差はよけい広がり、日本と異なり一般大衆の教育に対する意欲などはわかなかった。以上のことから日本では、庶民教育が認められたことで教育はよいことという一般概念が定着し、それにより向上心が発達して近代化推進につながっていったと考えることができよう。

そして最後に、¹⁸日本の教育と政治政策の関連が近代化にとって最も重要だったといえる。日本の教育は人材育成に当たって、（１）道徳的向上、（２）有用な技術の習得、そして（３）善政に必要な知恵と経験の拡大、という三つの目標を掲げた。この中で特に（３）が重要であった。なぜならば、知恵を習得する過程において養われたものは、何よりも国民全体の福利を増進させるために必要と考えられる政策、すなわち、人民の公益に対する奉仕策を進めようという意欲を持った政治的関心であったからである。知識は政治のために存在したといっても過言ではない。そしてこの意識から、日本国民全体の公益である近代化を達成させるために教育制度の発展は重要である、という見解が生まれた。

以上が、日本の教育が近代化を達成させた理由である。

3 まとめ

このように、日本の近代化とそれに影響を及ぼした教育の関係を見てみると、今後の低開発諸国の近代化実現や開発計画の推進には、いかに文盲を追放し初等教育を普及させ、さらにそれを発展させた高等教育を充実させるかが重要であることがよくわかる。確かに近代化達成のためには、経済政策や技術政策、そして政治政策の必要性はいうまでもない。だが、それらの政策を実行する我々の知的水準が近代化達成のレベルにまで達していなければ、いくら有用な政策を打ち出したとしてもそれを実行することができないのである。そのため先進国の立場としては、経済援助の重要性は勿論のことだが、それ以上に、教育や文化的援助を行い未近代国家の情報化を促していくことが大切であろう。

現在、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が中心となって教育・科学・文化・情報流通等の面での協力を行い識字教育や平和教育政策をしているが、まだまだ文盲率は高く教育が全地域に普及していない

¹⁶唐沢. 日本の近代化と教育. p. 4

¹⁷馬越. 現代アジアの教育—その伝統と革新—. p. 19

¹⁸ジャンセン. 日本における近代化の問題. p. 112-114, p. 119-126

のが現状である。このような状況を見てみると今の日本が存在するのは幕末から明治初期の教育政策の賜であり当時の日本の教育がいかに後の日本の歴史に重要な役割を果たしたか、改めて納得させられた。

参考文献

- 麻生 誠,「近代教育史」,第一法規,1968 年
唐沢富太郎編,「日本の近代化と教育」,第一法規,1976 年
M.B. ジャンセン,「日本における近代化の問題」,岩波書店,1968 年
「近代教育史」,小学館,1968 年,p.314-p.341
豊田俊雄著,「アジアの教育」,アジア経済研究所,1978 年, p.21-p.50
馬越 徹編,「現代のアジア教育ーその伝統と革新ー」,東信堂,1989 年
p.4-p41,p.82-p.88,p.107-p.112

慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス 〒252 神奈川県藤沢市遠藤5322

Keio University Shounan Fujisawa Campus 5322, Endo, Fujisawa, Kanagawa, 252, JAPAN